

TOUR DE HOKKAIDO 2005 NEWS

3rd Stage 2005年9月17日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	ティロ・シュラー	ド イ ツ	4:31:09
2	山本雅道	シ マ ノ	+0:00
3	島田真琴	法政大学	+0:00
4	三船雅彦	ミヤタ・スバル	+0:00
5	マーク・A・ウォルターズ	カナダ	+0:00
6	コーリー・レンジ	カナダ	+0:00

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	マリウス・ヴィズリアック	NIPPO	48
2	ティロ・シュラー	ド イ ツ	45
3	エディー・ラッティ	NIPPO	34
4	清水都貴	プリチストン・アンカー	33
5	岡崎和也	NIPPO	29
6	山本雅道	シ マ ノ	27

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	NIPPO	40:46:21
2	愛三工業	+3:39
3	プリチストン・アンカー	+5:37
4	シマノ	+5:55
5	韓国	+8:04
6	ミヤタ・スバル	+8:21
7	キナンCCD	+8:46
8	ロシア	+9:20
9	北海道地域選抜	+11:10
10	カナダ	+11:18
11	鹿屋体育大学	+11:30
12	日本大学	+13:53
13	ドイツ	+15:32
14	ラバネロ	+15:56
15	明治大学	+15:59

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	エディー・ラッティ	NIPPO	4:38:28
2	岡崎和也	NIPPO	+1:25
3	清水都貴	プリチストン・アンカー	+1:41
4	狩野智也	シマノ	+1:52
5	新保光起	愛三工業	+1:54
6	別府匠	愛三工業	+2:33

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	エディー・ラッティ	NIPPO	23
2	別府匠	愛三工業	18
3	新保光起	愛三工業	8
4	マリウス・ヴィズリアック	NIPPO	7
5	盛一大	愛三工業	7
6	田代恭崇	プリチストン・アンカー	7

3rd.stage ティロ・シュラー（ドイツ）がステージ優勝。各賞を守った NIPPO

ワインで有名な池田町の田園ホール前をスタート。出走は82人。ふるさと銀河線に沿って太平洋へ向けて南下し、先端に襟裳岬がある日高山脈を越える。海岸線へと出て、向かうゴールは静内町。走る距離は188kmだ。

スタートからアタックが繰り返される。集団はNIPPOがコントロール。

橋川健（キナン CCD）の単独逃げをきっかけに林裕也（北海道選抜）、根本哲史、立里匡道（ともに明治大）が合流して4人が逃げる。向かい風がきつくと集団に吸収された。

広瀬学（キナン）、廣瀬佳正（シマノ）が集団から飛び出した。差が広がり、まもなくホットスポットのある大樹町コスモール大樹道の駅へ向かう。

集団から多くの選手が抜けだしていき、各チームの動きが激しく、リーダーチームのNIPPOにとっては苦しい展開となった。

日高山脈を越える天馬街道に入る手前、36人の先頭集団から廣瀬佳正が飛び出し、田代恭崇、三浦恭資が合流。3人の逃げが決まる。

山岳ポイント通過順位は1位田代恭崇、2位三浦恭資、3位大内薫。集団では山岳賞争いで別府匠が、エディー・ラッティよりも先着し、ポイント差をつめた。



日本大学の広瀬学も6人の逃げ集団に混じり大活躍。まだ1年生、もちろん今年ツール・ド・北海道初参戦

下りで柿沼章（ミヤタ・スバル）、大庭伸也（日本大学）、中島康晴（鹿屋体育大学）が前の3人を追い合流。太平洋沿いの浦河町を走り、フィニッシュの静内町を目指す。中島康晴が脱落して、先頭5人。

集団は愛三工業、韓国、ラバネロが引き、残り5kmで先頭を吸収した。

フィニッシュは集団スプリントとなり、昨ステージ2位に入ったティロ・シュラーがこ



ステージ優勝のポディウムには左から2位の山本雅道（シマノメモリーコープ）、1位のティロ・シュラー（ドイツ）、3位の島田真琴（法政大学）が上がった

れを制した。2位には山本雅道（シマノ）。

そして3位に学生の島田真琴（法政大学）が入った。島田は今年2年生で、昨年はロード世界選手権ジュニアの日本代表として出場している。将来が期待されている有望な若手選手のひとりだ。

学生が表彰台にのぼったのは第1回大会の北海道大学の松井久以来、2度目。

4th.stage 山岳賞の逆転なるか。波乱が予想される第4ステージ

第4ステージは二つの山岳賞ポイントのほかにもう二つの上りを含む険しいコースだ。今大会の中でもっとも難しいコースではないかと話す選手や監督も多い。実力が試されるコースといえるだろう。途中でちぎれる選手もできるかも知れないし、大きな逃げも決まりやすい。ゴールは平坦だが集団スプリントにならない可能性も大いにある。最初のホットスポットのあとがアタックポイントになるかもしれない。

山岳賞は最初が7ポイント、次が5ポイント。現在山岳賞1位のラッティ（NIPPO）と二位の別府匠（愛三工業）との差は、暫定で5ポイント。逆転は十分に可能だ。別府が第3ステージに続いてポイントをどこまでのばせるかも注目だ。

また、今年は学生の活躍がめだっている。第3ステージは鹿屋体育大学の中島康晴と日本大学の広瀬学も6人の逃げ集団に混じり大活躍。まだ1年生、もちろん今年ツール・ド・北海道初参戦

第4ステージは公道を走る最後のレース。例年、ドラマチックな展開がみられるのもこのステージ。さて、今年は…



チーフコミッサーのカルナラッス・ナヴァラナラジャさんがCOM1に乗り指示を出す



TOUR DE HOKKAIDO